

小規模企業の景況

(令和2年1～3月期)

大阪商工会議所による小規模企業の景況調査(四半期毎)令和2年1～3月期の結果概要は以下の通り。今期(令和2年1～3月期、調査基準日:3月1日)の業況DI値は▲32.9(前回調査から6.5ポイント悪化)となり3期連続で悪化、売上額DI値は▲33.2(前回調査から7.5ポイント悪化)となった。業況DI値および売上額DI値は、いずれも東日本大震災の影響のあった平成23年4～6月期以来の低値となった。なかでも製造業においては、前回調査から業況DI値では20.2ポイント、売上額DI値では28.4ポイントと大幅に悪化した。

「経営上の問題点」では、サービス業で「その他」(新型コロナウイルスの影響や中韓取引に関連する回答:12件中3件)が第1位、卸売業で「その他」(同6件中4件)が第2位となったほか、全業種において「その他」の自由回答欄に記載があった29件のうち17件が、「新型コロナウイルスによる取引先からのオーダー減少」「対中国ビジネスの不透明化」等、新型コロナウイルスの影響や中・韓取引に関連するキーワードによりマイナスの影響があると回答した。

1. 今期(令和2年1～3月期)の状況

【売上額】今期(令和2年1～3月期)の売上額DI値(全産業)は、前回調査(令和元年10～12月期)の(▲25.7)から7.5ポイント悪化し、▲33.2となった。業種別では前回調査から、卸売業が9.9ポイント、小売業が8.2ポイントそれぞれ改善し、製造業が28.4ポイント、サービス業が15.9ポイントそれぞれ悪化した。

【資金繰り】今期の資金繰りDI値(全産業)は、前回調査(▲19.9)から2.2ポイント悪化し、▲22.1となった。業種別では前回調査から、小売業が1.1ポイント改善し、製造業が1.4ポイント、卸売業が3.5ポイント、サービス業が5.0ポイントそれぞれ悪化した。

【業況】今期の業況DI値(全産業)は、前回調査(▲26.4)から6.5ポイント悪化し、▲32.9となった。業種別では前回調査から、小売業が0.8ポイント改善し、製造業が20.2ポイント、卸売業が0.6ポイント、サービス業が5.1ポイントそれぞれ悪化した。

【従業員】今期の従業員DI値(全産業)は、前回調査(▲15.8)から2.0ポイント改善し、▲13.8となった。業種別では前回調査から、卸売業が7.5ポイント、小売業が2.8ポイントそれぞれ改善し、製造業が横ばい、サービス業が1.5ポイント悪化した。

2. 来期(令和2年4～6月期)の予想

来期(令和2年4～6月期)の全産業の予想DI値は、売上額▲29.1、資金繰り▲22.8、業況▲29.4となった。

3. 経営上の問題点

第1位は、製造業・卸売業・小売業が「需要の停滞」、サービス業が「その他」となった。

※DI値とは……ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、本調査では前年同期(平成31年1月～3月期)と比較して売上額、業況、資金繰りなどが「増加」「好転」したなどとする企業割合から、「減少」「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

【調査の概要】

- ・調査名：第159回中小企業景況調査（中小企業庁・中小企業基盤整備機構）
 - ・調査時期：令和2年2月20日～3月1日（前回：令和元年11月7日～11月15日）
 - ・調査方法：経営指導員による、調査票に基づく聴取り調査
 - ・調査対象：大阪市内の中小企業・小規模事業者
 - ※ 全国7,983件中、大阪商工会議所分324件。
 - ※ 本紙では、大阪商工会議所分のうちとくに小規模事業者（従業員：製造業20人以下、商業・サービス業5人以下）289件について取りまとめた。
- 〔製造業74件、卸売業65件、小売業68件、サービス業82件〕

■DI値推移（全産業）

	156回調査	157回調査	158回調査 (前回)		159回調査 (今回)	
	R1(2019年) 4～6月期	R1(2019年) 7～9月期	R1(2019年) 10～12月期	R2(2020年) 1～3月期	R2(2020年) 1～3月期	R2(2020年) 4～6月期
売上額（増-減）	-16.3	-19.0	-25.7	-21.9	-33.2	-29.1
資金繰り（好-悪）	-12.6	-13.6	-19.9	-17.5	-22.1	-22.8
業況（好-悪）	-16.3	-21.8	-26.4	-23.6	-32.9	-29.4
従業員（過-不）	-18.4	-17.0	-15.8		-13.8	

■経営上の問題点

順位	製造業	件数	卸売業	件数	小売業	件数	サービス業	件数
1位	需要の停滞 →	19 (14)	需要の停滞 →	23 (25)	需要の停滞 ↑	12 (8)	その他（新型コロナウイルスの社会への影響と不安等） ↑	12 (10)
2位	製品（加工） 単価の低下・ 上昇難 ↑	10 (8)	販売単価の低下・ 上昇難 ↑ その他（新型コロナウイルスのため悪化、中国からの輸入品の遅れ等） ↑ 小売業の進出による競争の激化 ↑	6 (4) 6 (3) 6 (1)	大型店・中型店の進出による競争の激化 →	10 (13)	利用者ニーズの変化への対応 ↓	11 (15)
3位	生産設備の不足・ 老朽化 →	8 (8)	/		消費者ニーズの変化への対応 ↓	8 (14)	需要の停滞 ↓	10 (11)

〔注〕（ ）内は前回（令和元年10～12月期）調査結果

↑＝前回より高順位

→＝前回と同順位

↓＝前回より低順位

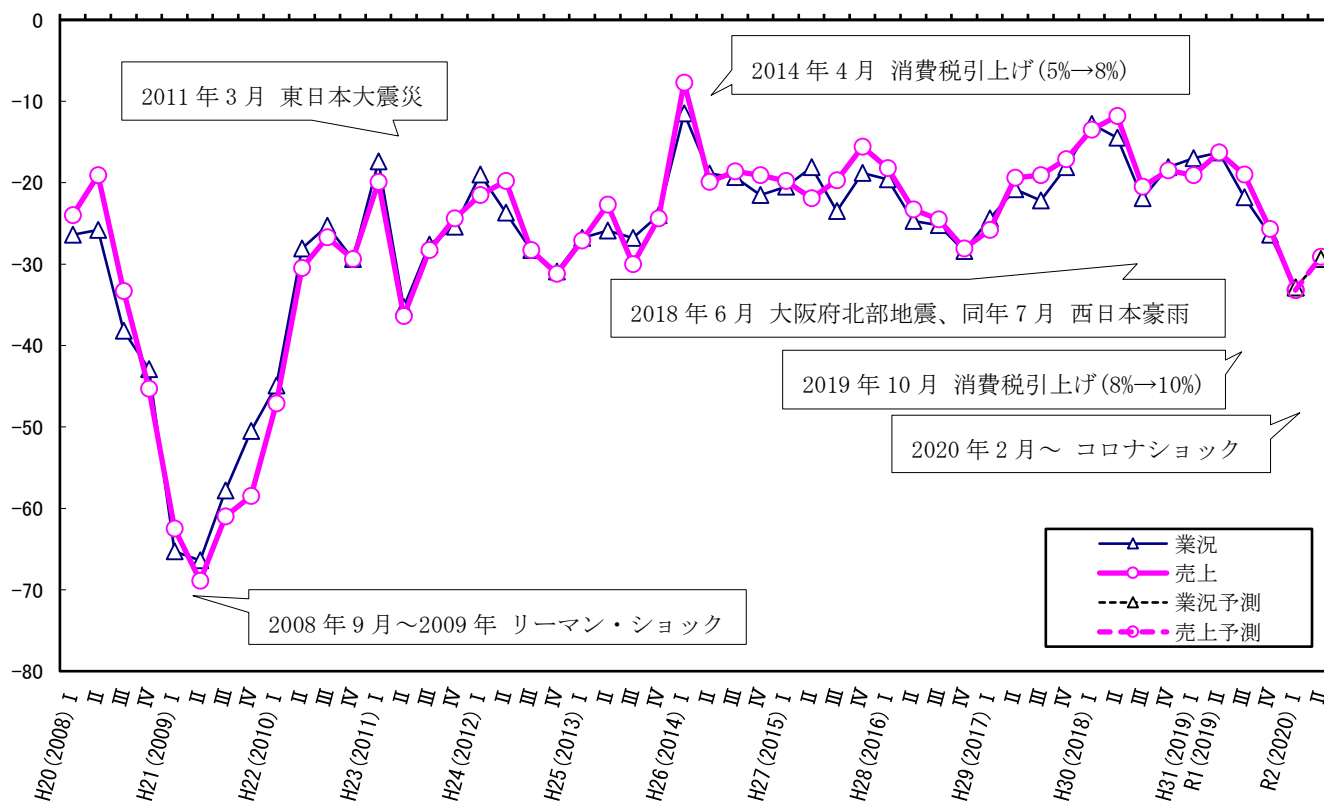
■ 状況比較表（業種別）

項目	業種	今期の状況(1~3月期)				前回(10~12月期)からの推移	来期の予想(4~6月期)			
		増加	不変	減少	増一減		増加	不変	減少	増一減
売上額										
	製造業	13.5	39.2	47.3	▲ 33.8	▲ 28.4	13.5	36.5	50.0	▲ 36.5
	卸売業	10.8	33.8	53.8	▲ 43.1	9.9	12.3	41.5	46.2	▲ 33.8
	小売業	16.2	29.4	54.4	▲ 38.2	8.2	13.2	30.9	55.9	▲ 42.6
	サービス業	18.3	42.7	39.0	▲ 20.7	▲ 15.9	26.8	39.0	34.1	▲ 7.3
	合計	14.9	36.7	48.1	▲ 33.2	▲ 7.5	17.0	37.0	46.0	▲ 29.1
	前回	19.5	35.3	45.2	▲ 25.7		16.1	45.5	38.0	▲ 21.9
資金繰り		好転	不変	悪化	好一悪		好転	不変	悪化	好一悪
	製造業	5.4	74.3	20.3	▲ 14.9	▲ 1.4	4.1	75.7	20.3	▲ 16.2
	卸売業	3.1	66.2	29.2	▲ 26.2	▲ 3.5	4.6	66.2	29.2	▲ 24.6
	小売業	4.4	61.8	32.4	▲ 27.9	1.1	2.9	58.8	36.8	▲ 33.8
	サービス業	1.2	74.4	22.0	▲ 20.7	▲ 5.0	3.7	70.7	22.0	▲ 18.3
	合計	3.5	69.6	25.6	▲ 22.1	▲ 2.2	3.8	68.2	26.6	▲ 22.8
	前回	3.1	72.6	22.9	▲ 19.9		4.1	72.9	21.6	▲ 17.5
業況		好転	不変	悪化	好一悪		好転	不変	悪化	好一悪
	製造業	6.8	54.1	39.2	▲ 32.4	▲ 20.2	5.4	52.7	39.2	▲ 33.8
	卸売業	13.8	33.8	52.3	▲ 38.5	▲ 0.6	9.2	41.5	47.7	▲ 38.5
	小売業	10.3	36.8	51.5	▲ 41.2	0.8	13.2	33.8	47.1	▲ 33.8
	サービス業	11.0	56.1	32.9	▲ 22.0	▲ 5.1	18.3	48.8	32.9	▲ 14.6
	合計	10.4	46.0	43.3	▲ 32.9	▲ 6.5	11.8	44.6	41.2	▲ 29.4
	前回	11.6	50.0	38.0	▲ 26.4		10.3	53.4	33.9	▲ 23.6
従業員		過剰	適正	不足	過一不					
	製造業	4.1	70.3	21.6	▲ 17.6	0.0				
	卸売業	6.2	78.5	10.8	▲ 4.6	7.5				
	小売業	2.9	75.0	8.8	▲ 5.9	2.8				
	サービス業	2.4	65.9	26.8	▲ 24.4	▲ 1.5				
	合計	3.8	72.0	17.6	▲ 13.8	2.0				
	前回	2.1	74.7	17.8	▲ 15.8					

「今期の状況（除従業員）」は令和2年1~3月期状況であり、前年同期の平成31年1~3月期との比較。来期の予想は令和2年4~6月期予想であり、令和元年4~6月期との比較である。

「前回」欄は令和元年10~12月期調査の数字。従業員は、過去との比較ではなく、業務量に照らした過不足。

■景況グラフ（売上額・業況）



※表示値＝D I（増加・好転－減少・悪化）値

※ I 期=1-3月、II 期=4-6月、III 期=7-9月、IV 期=10-12月

※令和2年 II は予想値